

秋葉原ガーデンクリニック

東京都千代田区神田松永町11 A T第1ビル7F
TEL.03-5298-7687 FAX.03-5298-7688
http://www.akiba-garden.com

対談 院長 山田康 × インタビュアー 角 盈男
[野球評論家]



INTERVIEW
YASUSHI YAMADA × MITSUO SUMI

自由で明るい雰囲気のカリニック。心の悩みの解決をお手伝いします



角 精神科・心療内科・心理治療を標榜されている秋葉原ガーデンクリニックさん。早速ですが、開業からどれくらいに。

山田 今年七月の開業です(対談日:平成二十年十月二十二日)。提携クリニックに「ガーデン」の名前が付いているので当クリニックもそれに合わせましたが、せめてその雰囲気を感じて頂くことと院内に自然光や植物を取り入れました。また、私もスタッフも白衣のようなユニフォームは身に付けず自由な明るい中で患者さんと接したいと思っております。開放的な気分でのうちを何でも気軽に話し頂ければ幸いです。

角 院長のご経歴を教えてください。

山田 出身は東京医科大学で、卒業後、慶應義塾大学医学部精神神経科学教室に入局し、そこで研鑽を積みました。それから都内各病院での勤務を経て、再び大学に戻って精神神経科助手、法務省矯正施設の法務技官を務めた後、開業に至った次第です。

角 院長は初めから精神科を目指しておられたのですか。

山田 はい。ご存じのように、今から二十年

くらい前までは精神科に掛かるのは後ろめたいことでした。日本では家族に精神を病む者があればそれを隠すことが当たり前であり、精神の病気は親族全体の恥と捕らえられていた時代が大変長く続いたので、その認識は最近薄れてきています。また、時代の変化と共に病院は病気を治しに行く場所であると同時に、病気にからないようにするために行く場所との考え方が一般的になりましたよね。精神科も同じことで、心が動揺した時、精神的につまづいた時など専門的なアドバイスを受けることができれば気持ちは落ち着きます。私は多くの方々の安心を保証する心の主治医になるために精神科を志したのです。

角 なるほど。確かに最近は何のためらいもなく精神科に掛かる人が多くなっていますよね。それはストレス社会を生き抜く中で大変良いことだと思います。

山田 当クリニックにも「こんなことでお医者さんに掛かっていいのでしょうか」といながら診察に訪れる患者さんが目立っています。もちろん「いいですよ」と言ってお受け入れます。気軽に通院して頂くことが最善の治療になると考えていますし、残業帰りの会社勤めの方にもお越し頂けるよう平日は午後九時まで開けています。

角 休みを取らなくても診察に行けるのは有り難いですね。病んだ人が掛かるというよりは、病む前に、予防するために掛かる医療機関があることが、目まぐるしく変化する今の世の中には大切なことだと私も痛感しています。さて、時代により精神障害も様々に変化していると思いますが、最近

どんな症状で悩む方が多いのでしょうか。

山田 パニック障害という病気をよくご存じですか。これは、例えば電車の狭い空間に身を置いている時などに急に息苦しくなったり、強い不安感に襲われて立っていられなくなったりするようないわば都会的な病気でして、このところ急増しています。でも、病気の知識がなく、自分だけがこんな病気にかかってしまったと悩み苦しむ人が非常に多いですね。そういう方々に我々が「心配いりませんよ」と声を掛けてあげることはとても重要だと思っています。

角 今説明して下さったパニック障害は、仮に都会を離れて電車に乗らない生活をすれば快方に向かうのですか。

山田 ええ、例えば農業などをしてのんびり暮らすようになるとパニック障害の症状はほとんど出なくなると思います。電車に乗らなければならぬ生活をしている間だけその方は病気なのであって、環境が変わると病気ではなくなるのです。現代の多くの精神障害がそういったものだと、病自体の概念が変化してきています。もちろん重篤な精神障害の方もいらっしゃいますが、今の社会で圧倒的に多いのは環境によってメンタルダメージを受けてしまう患者さんです。

角 普通の病気と同じで、パニック障害なども早期発見が大切なのですか。

山田 そうですね。早め早めの治療で、特にパニック障害などは改善します。「もっと早く来れば良かったです」とおっしゃる方も多いのですよ。それこそ心に余計な負担を掛けないためにも精神科の門を気軽に叩くつもりでいいと思います。

角 ところで、最近うつ病も社会問題化しています。若い人を中心にこれまでとは違ったタイプのうつ病が増えてきたと新聞などで目にするのですが、同じ疾患でも時代によって違ってくるものなのでしょうか。

山田 そうですね。「新型うつ病」と称して、本当にうつ病なのか、単なる我がままなうつ病に逃げ込んでいるだけなのか、線引きの難しいうつ病が専門家の間で注目されていることは事実です。

角 我々の業界でも選手が「疲れた」と口にした場合、本当に肉体的にも精神的にもしんどいのか、単にその選手に根性が足りないだけなのか判断に迷うことがあります。それとよく似た状況でしょうか。

山田 おっしゃる通りです。でも、疲れたと本人が言うのであればやはり休ませてあげなければいけません。その後、しっかり話を聞けば怠けているのか、心を病んでいるのか分かってくると考えています。

角 カウンセリングを受ける感覚で精神科に掛かる方が増えているのでしょうか。

山田 私どもが啓蒙したいのもその部分です。精神科にはカウンセラーの要素もありながら、保険が適用され安心できますよというところをもっと広く知って頂きたいと。

角 最後に院長の夢をお聞かせ下さい。

山田 クリニックの経営を軌道に乗せていくことが夢というよりは大きな目標です。それとは別に、思春期の子供達の成長をサポートするようなメンタルホスピタルを南の島で開業することが最終的な夢です。
角 大きな夢が実現することを私も応援しています。ますますの尽力を。